

愛院大恩師・芝准教授ねぎらじ

アーティストックスイミング4位 吉田選手 世界挑む探検精神 学業でも



東京五輪アーティストックスイミング（AS）のデュエックト決勝で四日、四位となった吉田萌選手（むも）＝名古屋市瑞穂区出身。現在の勤務先でもある母校、愛知学院大（日進市）で二年間、ゼミの指導をした文学部の芝奈穂准教授には、強い印象が残っている。毎朝と放課後、ASの練習をしながら学業も休むことなく取り組み、「四歳からこういう生活ですから」とこどもなげに言っていた吉田選手の姿だ。

大学時代には既に日本代表候補だった。二年生で一カ月間、海外遠征したときには、出席の代わりに出されていた履修十三

教科の課題を遠征先ですべて終え、さらに帰国翌日から通常授業に加えて十三コマの補講もクールな表情でこなし、教員たちを驚かせた。

体を心配した芝准教授が声をかけると、吉田選手は「私はスポーツをやっているので弱音は吐きません」と言ったという。

「この強さが彼女を世界大会までたどり着かせたのだらうなと思っただ」と振り返る。

ゼミでは、英国文化研究を専攻。卒論のテーマは「十八、十九世紀のイギリス探検家」だった。「今から考えると、世界に挑む探検家に自分の思いを重ねたのでは」と芝准教授。大舞台を終え、世界に挑んだ教え子に「ここまで想像を超える険しい道のりだったと思う。世界四位はすごく立派。お疲れさまと伝えたい」とねぎらった。

（平木友見子）